

◆ 今週のコメント

- ・ 手足口病の定点当たり報告数は1.13(44例)です。第28週(7月11日～7月17日)のピークが12.7でしたが、それ以降減少していました。しかし、第39週(9月26日～10月2日)以降横ばいとなり、しかも、例年に比べ多い状態が続いています。
- ・ **RSウイルス感染症**の定点当たり報告数は0.26(10例)で、先週(0.33)に比べ減少しました。しかし、例年より報告数が多い状態が続いています。
年齢階級別では、0～5箇月が6例(60.0%)と最も多くなっており、1歳未満が70.0%を占めています。
10月17日よりRSウイルス抗原検査の診療報酬算定要件が拡大され、これまでの「入院中の患者」に加え、「乳児(満1歳未満の子ども)」及び「パリビズマブ製剤(商品名:シナジス)の適応患者」でも、診療報酬を算定できるようになりました。以下を御参照ください。
<http://www.hourei.mhlw.go.jp/hourei/doc/tsuchi/T111019S0010.pdf>

◆ 今週のトピックス: <水痘>

水痘の定点当たり報告数は、0.69(27例)で、先週(0.44)に比べ増加しています。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

ありません

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点66, 小児科定点39, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	0.02	1
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	1.62	63
	② 手足口病	1.13	44
	③ 水痘	0.69	27
	④ 突発性発しん	0.46	18
	⑤ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.31	12
眼科	流行性角結膜炎	0.50	5

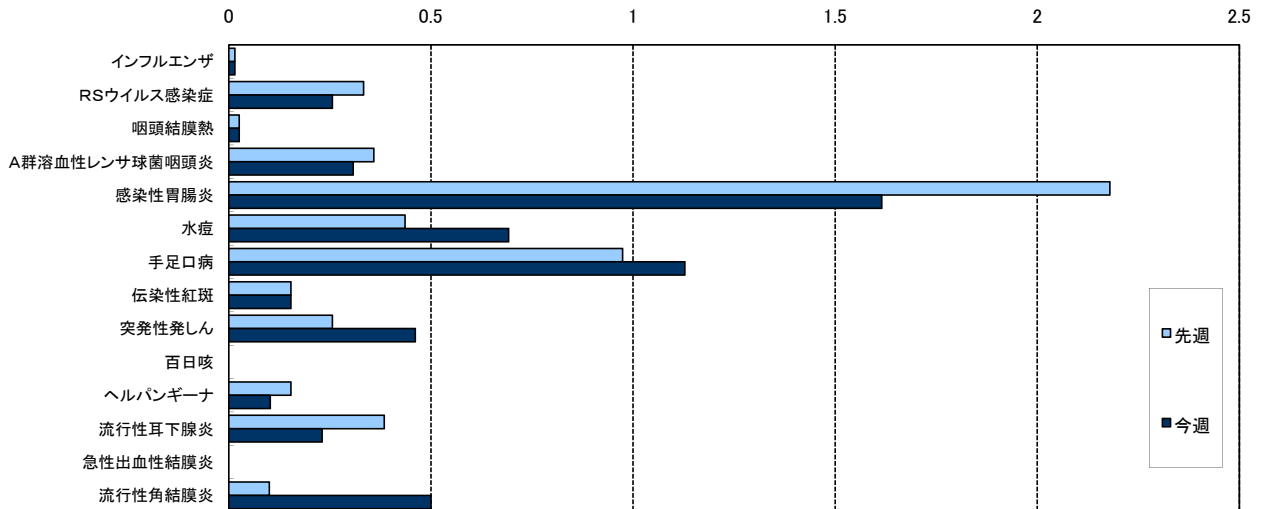
【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <水痘>

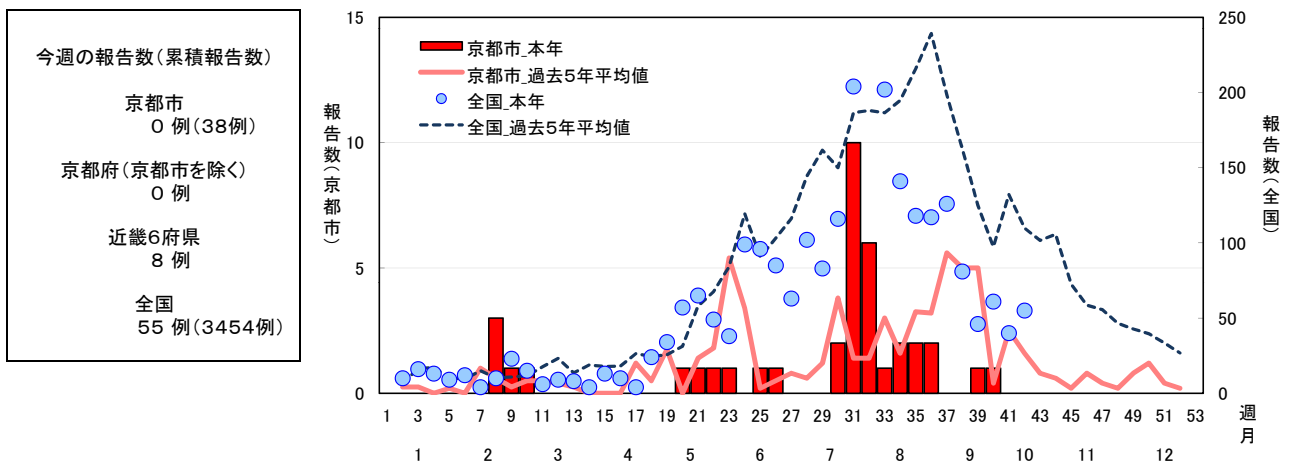
(注) 京都市のデータは、平成23年10月27日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。
また、本情報での患者数は、届出医療機関所在地での集計で、患者の住所を示すものではありません。

◆ 発生状況の概況グラフ

1 今週(第42週)と先週(第41週)の定点当たり報告数の比較

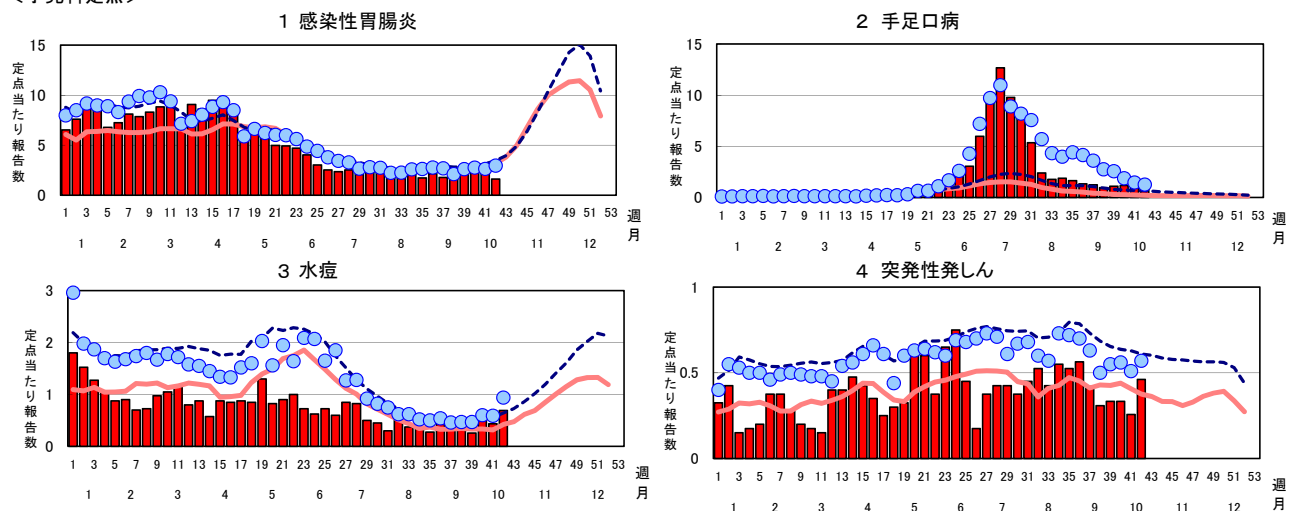


2 腸管出血性大腸菌感染症(三類感染症)の推移

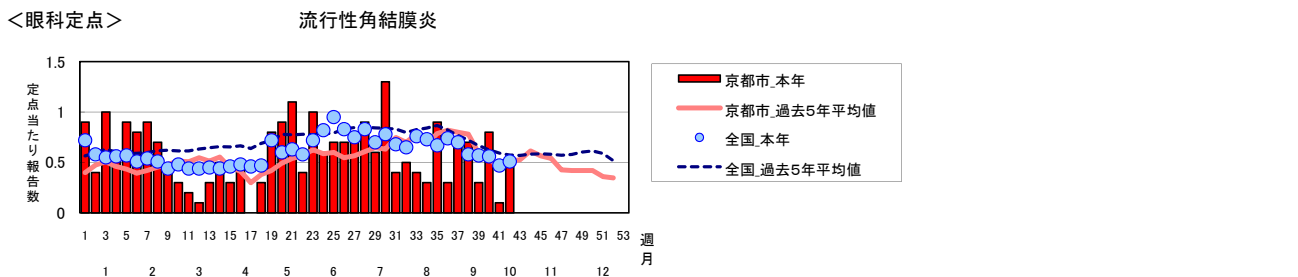


3 主な感染症の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



<眼科定点>



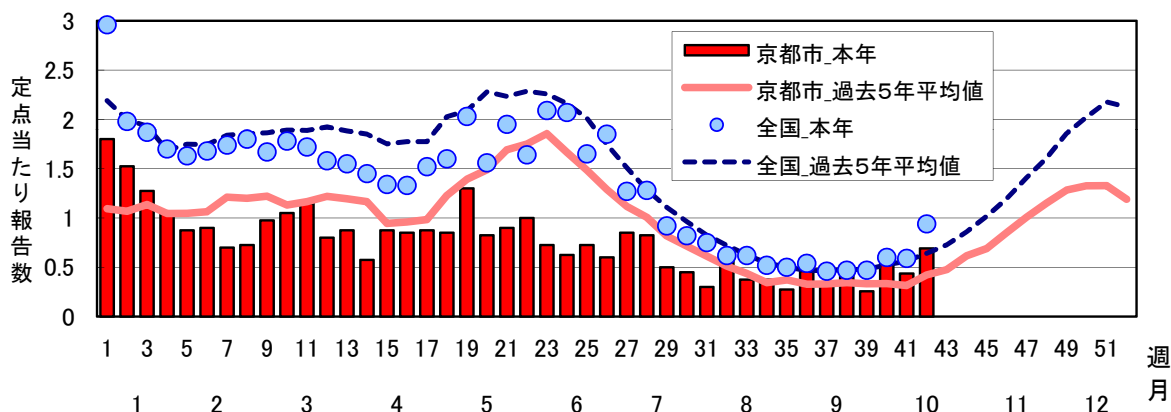
第42週(10月17日～10月23日)トピックス: <水痘>

水痘の定点当たり報告数は、0.69(27例)で、先週(0.44)に比べ増加しています。例年、冬にかけて報告数が増加しますので、今後の動向に御注意ください。

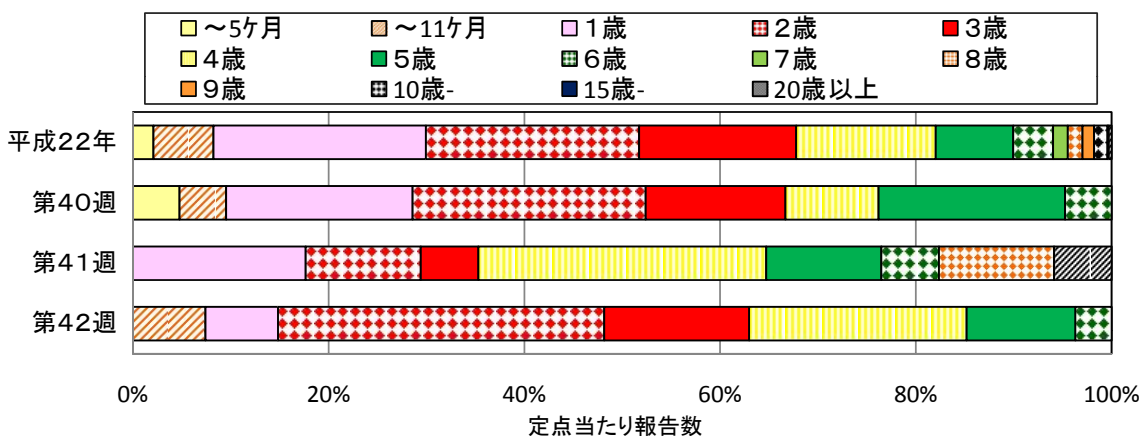
年齢階級別割合では、2歳が9例(33.3%)と最も多く、次いで4歳が6例(22.2%)、3歳が4例(14.8%)となっています。2歳～4歳を合わせて70.4%を占めています。

行政区別では、11行政区のうち9行政区(山科、下京を除く)で報告があります。

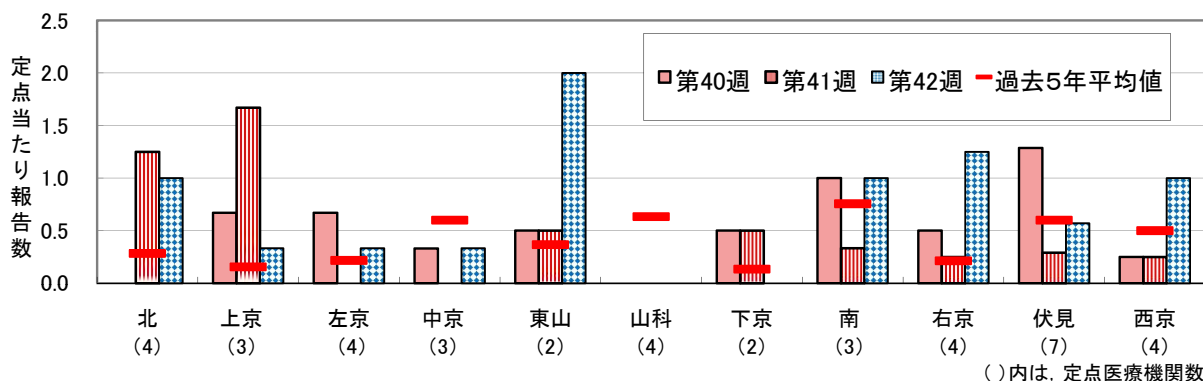
本市及び全国の定点当たり報告数の推移



年齢階級別割合の推移



行政区別定点当たり報告数の推移



()内は、定点医療機関数